

このはな ざくら



調整池のほてい草が開花

当院南側の調整池には、ほてい草が群生し、美しい花々が開花しました。ほてい草は、正式名称を「布袋葵（ほていあおい）」と呼び、洋名でウォーターヒヤシンスという美しい花です。通常ですと10月まで花が楽しめます。

私たちが、いなべ地域の「命」を守ります。

新任医師紹介

※詳しい紹介は1Pにあります。



放射線科
加藤和子医師



整形外科
高橋美奈子医師



外科
毛利紀章医師



水野院長の巻頭エッセイ
ちよっと一言



いなべ総合病院・院長

水野 章

インフォームド
コンセント

近頃、テレビや新聞紙上でインフォームドコンセントという言葉を目にすることが多いと思います。英語の頭文字をとってICともいいますが、一般社会では「告知」とか「がんの告知」という意味で受け取られていることがまだ多いようです。しかし、本来の意味は「病状を十分に説明する」ということで何もがんに限ったことではありません。病気の状態や検査の結果を患者さん本人に充分説明し、理解していただいて、納得の上、治療を進めていくことであります。患者さんには自分の病状を知る権利があると同時に知りたくない権利も発生してきます。病気が重いほど、自分の病状を良く理解して、身体を大切にしてい

きたいと思えます。また、自分や家族あるいは社会（会社）のためにやっておきたいことがあるはずですので、少しでも悔いのない様に過ごしていただくために、インフォームドコンセントをとり、治療をすすめるのが21世紀の医療なのです。ところが、現実には「がんの告知」ともなると家族が本人に病名を知らせないでほしいと要望されることが今でも度々あります。ご本人の辛い気持ちを察するばかりに本当のことを教えないでほしいという家族の優しさが原点なのは分かりますが、それは一時のもので、後に本人にとって医療不信、医者不信、家族不信と繋がる悩みとなり、家族にとっても後味の悪い最期を迎えることとなります。なかなか難しいことですが、ご本人には自分の体ことは充分理解していただき、ご家族の方も病院職員も患者さんの病気という重いハードルを乗り越えるための心の支えの一つになればいいと思います。そのためにも何か疑問や不明な点がありましたら、何度でも理解できるまで主治医に聞く勇氣を持ちましょう。聞いていただけることは主治医にとっても嬉しいことです。

新任ドクターの一言自己紹介

【ドクターへの質問】①出身大学②卒年③趣味④専門領域、専門医など



放射線科
加藤和子医師

- ①名古屋市立大学
- ②平成10年
- ③映画、読書、昼寝
- ④マンモグラフィ
マンモグラフィ 認定医A



整形外科
高橋美奈子医師

- ①名古屋市立大学
- ②平成15年
- ③いなべに来たのでゴルフを始めようかと少し考えています。
- ④なし



外科
中央手術センター長
毛利紀章医師

- ①名古屋市立大学
- ②昭和62年
- ③ゴルフ、スポーツ鑑賞、天体観測
- ④消化器外科、腫瘍外科、癌化学療法
日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医、日本癌治療学会臨床試験登録医、医学博士

このはなNEWS



↑ 消火器の使い方を訓練する看護師ら

患者様を守るために 定期防災訓練

去る6月5日、当院で定期的に行われる防災訓練を実施しました。「患者様を守るために、病院職員がより意識を高める必要がある」という水野院長の挨拶を受け、参加職員100名は、「社会福祉施設における防災意識のあり方」、「自衛消防活動」に関するビデオを見ました。その後、玄関前のロビーに於いて、看護師らによる消火器や消火栓を用いた放水訓練なども行いました。

北勢中学校の 職業体験

6月16日～17日の2日間、北勢中学校2年生生徒6名が、職業体験として当院に実習にきました。

生徒たちは、看護師などの仕事を間近に見ながら簡単な作業を手伝い、実際の医療の現場を体験しました。

最終日、伊藤看護部長を囲み、感想発表会、質問会を開催。なかには、

「実際に体験して、将来、こうした仕事を私はやってみたい」と頼もしい感想を寄せてくれた生徒もいました。



伊藤看護部長を囲んで。北勢中学校の生徒6名

接遇研修プログラム を実施

患者様が心地よく来院できるよう「マナー意識の改革の基礎理解」をテーマに、接遇研修プログラムが実施されました。実施日の5月29日、丸1日をかけて、「今、病院看護に何が求められているか」を主旨にしたオリエンテーション、「身だしなみと立ち振る舞いの確認」、「電話のかけ方、受け方」などの実習など、様々なプログラムが展開されました。最後に、次回に繋がる「個人サービスマークの設定」なども行われました。



↑ お話を聞き、普段の自分の接し方を見直しました

今回は

『乳房X線撮影装置
マンモグラフィ』

です。



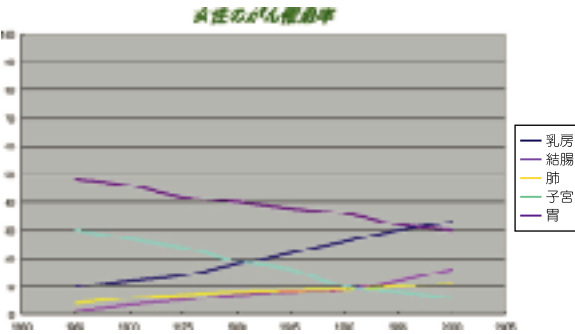
いなへ総合病院・女医キャラ
Dr.いな美

乳がんは年々増加し、日本女性の30人に1人以上の割合で発生するといわれており、どんな人でもかかる可能性のある病気です。近年、壮年期女性の死亡原因のトップとなっています。乳がんは早期発見・早期治療で治癒が可能です。

しかし自分でしこりに気がついて受診した患者様のうち、早期がんの割合はわずか30%であり、早期発見のために重要となってくるのが乳がん検診です。従来の視診・触診のみの検診では発見できる早期がんは50%程度でしたが、当院では最新の「マンモグラフィ」を使って、乳がんの早期発見に効果を発揮しています。

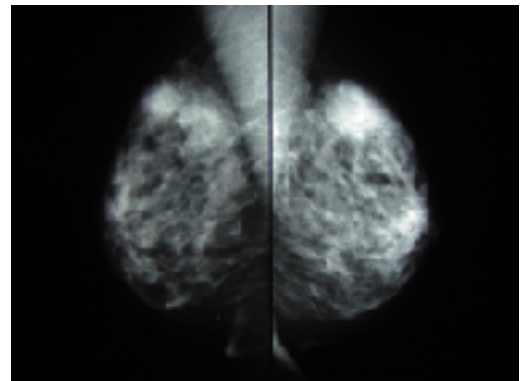
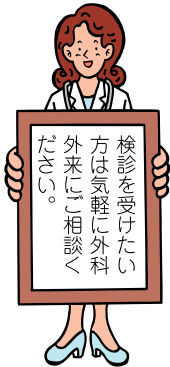


マンモグラフィとは乳房専用のX線装置のことをいい、胸部や骨のX線検査などと原理は全く同じです。乳房にX線を当てそのX線の吸収差をフィルムに写し出すものです。他の撮影と大きく違うところは、乳房は全体が柔らかい組織でX線の吸収差が少ないため通常のX線装置では撮影することができません。その為、乳房専用のX線装置を用いて乳房専用のフィルムに撮影する必要があります。



マンモグラフィでは、乳腺内に出る微小石灰化（乳がんによる非常に小さな石灰化）や触診の難しい小さな腫瘍陰影を描出することも出来ます。マンモグラフィの検査はそういった微小石灰化の早期発見、またはそれが良性なものか否かの診断に大変有効です。当院では乳腺精度管理委員会認定A級の読影診断医と女性放射線技師が携わっております。

乳がんを早期に見るためには定期的に検診を受けていただくことが最良です。自分だけの問題でなく貴方を大切に考えていてくれる人達のためにも当院のマンモグラフィを含めた検診をお勧めいたします。



夏の健康コラム



栄養管理科長・栄養士
瀬古 ちさと

暑い夏、高齢者の方に
気をつけていただきたいこと。

今年の夏は、本当に暑いです。特に高齢者の方の体には、大きな負担がかかります。そこで栄養士として、夏に気をつけて頂きたいことをまとめてみます。

まず、高齢者の方はあまり動かないので、喉が乾かない。だから、脱水症状に気づきにくいことに注意して下さい。1時間に1回、少量でもお茶や水を飲むような心がけが大切です。また、冷房のかけすぎによるお腹への負担も注意。ちょっとした油断で、胃腸不良がおこり、体調を崩してしまいます。目安としては、外気との差が5〜6℃。高血圧の方は利尿剤を飲んでいけることもあり、特に脱水が心配されますので気をつけて下さい。

よくスポーツドリンクを飲まれる方がいますが、あれはスポーツをする前提で作られたものです。高齢者の方は血圧が上がってしまう場合があるので要注意。お茶などをおすすめします。冷たいものは胃腸の働きを弱めるので、温かいものをゆつくり飲んで下さい。

暑さで食欲のない方は、1日4〜5回に分けて食事をしましょう。必要な栄養をきっちり摂ることが必要です。糖分の摂りすぎにも注意してください。

From 健康管理センター



いなべ総合病院副院長
石川雅一医師

乳がんの検診を受けましょう。

乳がんは、体表から触れることのできるがんであり、自分でさわって発見できるがんでもあるのです。早く見つければ、100%治ることも少なくありません。乳がん検診では視触診に加えて、画像診断を導入することで、1cm以下の微小乳がん、触知出来ない乳がんを発見することができます。そういう段階で発見された乳がんは、根治が可能で、最小限の手術で治療することも可能です。乳がんの早期発見のために年に1度の乳がん検診と、月1回の自己検診を心がけましょう。

乳がんの高危険群

1. 40歳以上（50～54歳がピーク）
2. 未婚（30歳以上）
3. 初産年齢30歳以上
4. 閉経年齢55歳以上
5. 肥満：標準体重の20%以上
6. 良性乳腺疾患の既往
7. 乳がんの既往
8. 乳がんの家族歴

特に上記のような条件にあてはまる人は、乳がんになりやすいと言われています。乳がん検診を積極的に受けましょう。

平成16年7月より

乳腺外来を開いています。

毎週水曜日

午後1時30分～3時

要予約

電話予約により視触診・超音波検査・マンモグラフィ撮影を半日で済ませることが可能です。診断結果は、検討会後説明させていただきます。

レポート
病院ボランティアさん

J A いなべ助け合い組織 ほほえみの会 フォロワー研修会

当院の玄関などで外来患者様の案内や車イスのフォローをされているボランティアの皆さんを見かけたことがある方も多いと思います。

このボランティアさんは、いなべ地域の農協、J A いなべの組合員の方々が自主的に運営している助け合い組織・「ほほえみの会」のみなさんです。ほほえみの会の皆さんが、当院で病院ボランティアとして活動をされて、数年になりますが、ボランティアと病院との連携は、年々強いものとなっています。

そして、当院2階会議室に於いて、不定期的にボランティアさんたちのフォロワーアップ研修会を行っています。去る6月28日も、「生活習慣病と食事について」をテーマに研修が行われました。

当院では、こうした地域の方々との活動を通じて今後ますます地域の連携を強化していきます。



6月8日
員弁町西方老人会
リハビリ科豊田技師長



6月13日
員弁町北金井老人クラブ
妹尾副院長



7月9日
いなべ市郡小中学校養護教諭
相田副院長



お招きくださりまして大変ありがとうございました。

今後も精力的に講演に行かせて頂きます！
講演会に関しては、病院までご相談下さい。



地域との連携をめざして

いなべ総合病院 出前講演会報告

いなべ地域唯一の総合病院として、当院は地域医療に全力を尽くすことをテーマにしております。そうした中で、「どんどん自分たちから地域へ出て行こう」という発想のもと行われているのが、当院のドクターなどによる『出前講演会』です。開始以来、様々な団体、企業などから声を掛けていただき、大変ご好評を頂いております。

様々な地域の団体の方々に
ご利用頂いています。

7月18日
員弁町市之原老人会
石川副院長



7月21日
大安町石博南山条老人会
水野院長



地域の施設、団体、クラブ、企業へ参ります。下記が当院の各科医師等が用意しています講演内容です。

【内科医師】生活習慣病(健診データの見方・がん・高血圧症・心臓病・脳卒中・糖尿病・高脂血症・痛風・肥満)、肝臓病、腎臓病、貧血、消化器の病気 【外科医師】がん(乳がん・胃がん・大腸がん・肝臓がんの治療)、鏡視下手術(カメラを使った手術)、痔の治療、胆石の治療、褥瘡の治療と管理、人工肛門の管理、外科手術と栄養 【整形外科医師】骨粗しょう症、肩こり、腰痛、関節の痛み、しびれ 【眼科医師】視力障害、白内障、緑内障、眼底検査 【泌尿器医師】排尿障害、前立線肥大、前立線がん、尿失禁、尿路結石 【脳外科医師】脳卒中、くも膜下出血、脳腫瘍、しびれ、頭痛 【産婦人科医師】出産ほか、更年期障害、子宮がん、不正出血、子宮内膜症 【耳鼻科医師】花粉症、耳鳴り、めまい、味覚・嗅覚障害 【小児科医師】予防接種、脱水、アレルギー 【薬剤師】くすりの知識・飲み方 【検査技師】検査方法、健診データの見方 【放射線技師】レントゲン検査・MRI/CT検査でわかること 【理学療法士・作業療法士】リハビリの方法・進め方、肩こり、腰痛予防、寝たきり予防 【看護師】家庭介護、救急法、乳がんの自己診断、介護実習、生活習慣病予防 【助産婦】妊娠・出産・産後・育児 【社会福祉士】福祉制度、社会保険、介護保険、介護機器、医療相談 【事務部門】医療状況、地域医療事例、医療保険制度

こんにちは！
各科職員を笑顔で紹介



【第3回】

薬剤部

薬剤部は、病院の正面玄関に入った中央ホールに面しており、現在9名の薬剤師が勤務しています。外来・入院患者様の内服・外用薬の調剤、注射薬の調剤・混合業務などの医薬品の供給・管理のほか、薬品に関する情報の収集及び提供も行っています。さらに入院・在宅患者様に対しては、服薬指導や薬歴の管理及び副作用のチェック等を行っています。地域の皆様が、安心して薬物治療を行っていただけるように、医師や看護師などと連携をとりながら、患者様を中心とした医療に貢献していきたいと思っております。

お薬について、ご不明な点がございましたらお気軽にお尋ね下さい。



薬剤部長：福永 浩也 薬剤師主任：山口 恵
 薬剤師：太田 知彰、守田 覚、伊藤 広樹、日下部 広之、岡本 浩江、林 陽子、九鬼 大作

STAFF LIST

当院で生まれた
ベビー紹介
エンジェル
スマイル

おめでとうございます！



平成16年7月20日生
花本美恵様ベビー

平成16年7月20日生
佐川里美様ベビー



東澤友恵



看護師日記リレー

笑顔同封

私は看護師になり、もうすぐ1年半が経ちます。思い返してみると働きたかった頃は、毎日が緊張の連続で、悩んだり、後悔したりの繰り返しでした。そんな時、『焦らなくても大丈夫だよ』『私も最初は同じだったよ』という何気ない先輩方の言葉や、『一緒に頑張ろう』と言ってくれた同僚の言葉がとても心にしみました。また、少しだけ慣れてきた頃に『あなたがいてくれて本当によかった。ありがとう』と目に涙をためながら言ってくれた患者様が見えました。その時、こんな新人の私でもそんな風に思ってくれる方がいるのだと、その患者様から逆に勇気付けられました。

私はこの1年半、患者様、先輩方、同僚の一言一句が、私の元気の源だったと痛感しています。これからは、この様な元気の源をもうっただけでなく、患者様に与えられるような看護師になれるよう日々努力していきたいと思えます。

看護コラム

8/5・6

一日看護体験が行われました

8月5・6日、いなべ総合学園の生徒8名が、当院に1日看護体験に訪れました。この体験は県が主体となって行う教育の一環の事業です。現役高校生からの体験の希望者を募り、地域の医療機関で、受け入れるといったものです。当院では、毎年、体験希望者を受け入れております。

